

I 観葉植物の育て方

観葉植物とは、葉の色や形などその美しさを観賞するもので、熱帯、亜熱帯原産の植物がほとんどです。このようなことから、次のような点に注意しながら管理を行う必要があります。

栽培管理

温度

植物が生育するのに適した温度は、植物の種類によって異なり、また、光、水、肥料条件などによっても影響されるので、生育適温を簡単に決めることはできませんが、冬の最低温度を知っていれば、一応の栽培の目安になります。（表参照）。日本の冬は、観葉植物にとっては温度が低すぎるので、加温、あるいは保温の必要があります。

湿度

70～80%程度を保つことが望まれます。秋以降、湿度不足から生育が悪くなったり、葉が変色、枯死することがあるので注意が必要です。特に冬は乾燥するので、時々葉面に霧を噴いてやります。

日光

日光を好む種類として、クロトン、アカリファ、タコノキ、サンセベリア、ゴムノキ、アイビーなどが知られていますが、多くの観葉植物は半日陰で育ててやります。強光に当たると、葉が焼けて黄ばんでいきます。特に夏は、鉢を木陰に置いたり、寒紗やよしずなどを利用して直射日光を避けるようにします。

水やり

「水やり3年」とよくいわれ、水やりの仕方では生育が左右されます。用土が乾燥したら水が鉢底にぬけるまで、タププリと葉上からかけてやります。たとえば夏は1日に1～2回（朝と夕方）行い、冬はひかえめに、2～4日に1回程度（午前中に）行います。観葉植物は葉にも灌水をしてやると、生育が良くなります。

肥料

一般に4～9月にかけて、月に1度油カス（5号鉢で茶さじ2杯程度）か、月に2～3回液体肥料を与えます。特に生育の開始期である5～6月には充分与えてください。冬は肥料は与えない方が無難です。

病虫害と防除

おもな害虫としてカイガラムシ、アブラムシ、ハダニ、ナメクジなどがよく発生します。これらの害虫は鉢数が少ない場合は手で捕殺するか、ハブラシなどでこすり落とします。カイガラムシは成虫の場合殺虫剤の効果がほとんどないので、ひどく発生しているときには思いきって発生している枝を剪定するつもりで切ってやる方法もあります。幼虫は発生期の5～6月にスミチオン、ジメトエートなどを散布してやれば効果があります。アブラムシはスミチオンやマラソンで効果があります。ハダニはケルセン、アカールなどがよく効きます。病気は褐斑病、炭そ病などがよく発生しますが、予防にはダイセン、ベンレートを散布して下さい。

観葉植物越冬温度

温度	植 物 名
15℃ 10	アローカシア、アンズリューム、アグラオネマ、デフェンバキア、カラジューム、カラテア、クロトン、セントポーリア、ウツボカズラ、アラリア、コーヒノキ、エビスシア、フィトニア、アカリファ
10 5	オオタニワタリ、タマシダ、ネフィロレピス、アレカヤシ、ケンチャヤシ、テーブルヤシ、フィロデンドロン、モンステラ、コルジリーネ、ドラセナ、アナナス類、サクララン、オウゴンカズラ、コルムネア、サンセベリア、ハイビスカス、ペペロミア、カンキチク、ブーゲンビリア、ペゴニア類、ポインセチア
5 0	カンノンチク、シュロチク、ピカクシダ、フェニックス、トラデスカンチア、ゲットウ、オリズラン、ゴクラクチョウカ、ゴムノキ、ベンケイソウ類

※ 最低温度の範囲(できればこの範囲以上の温度で管理する。) 最低温度が保てない時は、水やりをひかえる。

II 観葉植物のふやし方

株分け

株元からそう生ずる種類のアジアンタム、カラテア、サンセベリア、ペゴニア、カンノンチクなどで行います。時期は4～5月以降が適期です。植え替え後は、しばらくは直射日光をさけて風の当たらない所で管理します。

さし木

枝ざし・さし芽

枝ざしは天ざしとも呼び、観葉植物以外の植物でも一般的に行われる方法です。トラデスカンチア、クロトン、ゴムノキ、ドラセナ、木立性ペゴニア、ポトスなどで行います。さし穂は良く切れる刃物で10cm内外に切り、川砂、鹿沼土、水苔などにさします。さし穂は全長の3分の1位の深さにさし、枝についている葉は最上部の3～4枚を残し、他は除去します。残した葉が大きいときは水分の蒸散を防ぐために2分の1位切り縮めるか葉を巻いて軽くバンドで止めておきます。ゴムノキは一芽ざしと言って、頂芽を使わないで葉柄のもとにある小さな芽に葉柄と葉をつけてさす方法があります。この方法は一茎から多数の個体を得ることができますが天ざしよりも親株になるまで期間がかかります。

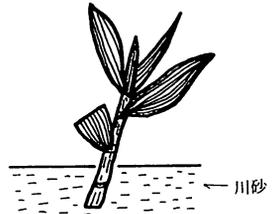


図1 トラデスカンチアのさし芽

茎ざし

頂芽をつけないで、幹の途中を切ってさす方法で、生長が早く下葉がなくなりやすい、ドラセナ、コルジリーネ、ディフェンバキア、フィロデンドロンなどでよく行います。茎を2節程度に切って、水ごけや川砂にさします。ドラセナの太い茎は縦に2つ割とし、切り口を下にしてさします。

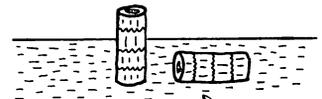


図2 ドラセナの茎ざし

葉ざし

葉ざしは葉からよく発根、発芽する種類について行います。葉ざしのできる種類は、サンセベリア、ペペロミア、セントポーリア、ペゴニアなどがあります。さし木用土は、川砂、パーミキュライト、鹿沼土が適します。

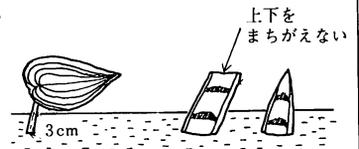


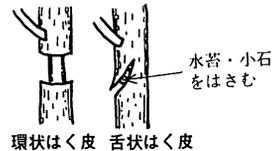
図3 ペペロミアの葉ざし サンセベリアの葉ざし

さし木時期とその後の管理

時期は5～6月と9月が適期です。さし木後は半日陰の、やや湿度がある場所で管理します。多湿で高温すぎると、腐ることがありますので注意が必要です。

取り木

ゴムノキ、ドラセナ、デフェンバキアなどで行います。適期は6～9月です。取り木は上手に行えば確実に苗が得られ、その後の生長もさし木に比べると良いようです。方法は環状はく皮と舌状はく皮の2方法があります。根が外から見え始めたら切り離して植えます。



環状はく皮 舌状はく皮

実生

アンズリューム、ヤシ類、ディフェンバキア、クシランなどで行います。実生の適期は4～8月で、用土は川砂、パーミキュライト、水ごけを用います。

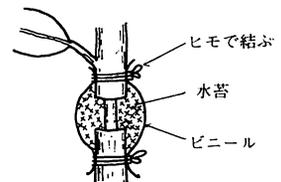


図4 ゴムノキの取り木